

5-3 チェックリスト

チェックリスト①

【視点1】サインシステム・・・建物サインが連続的に配置されているか

項目	チェック内容	
基本的な考え方	<input type="checkbox"/> さまざまな建物利用者が建物の機能やサービスを等しく受けられるように情報提供を行う <input type="checkbox"/> 視覚、聴覚、触覚、人的対応などの複数の情報伝達方法による情報提供を行う <input type="checkbox"/> 建物管理者等は、維持管理・運用を通じて、建物サインに対する理解を深める <input type="checkbox"/> 非日常時に全ての建物利用者が安全かつ迅速に避難できるように情報提供を行う	
サインシステム	<input type="checkbox"/> 「建物アプローチ」「情報拠点」「移動空間」「目的空間」の各空間に連続的にサインが配置されている	●建物内の4つの空間と主な留意点(p13)
建物アプローチ (玄関・出入口周辺部等)	<input type="checkbox"/> 玄関まで建物利用者を誘導するサインがある <input type="checkbox"/> 建物利用者に建物へ到着したことを示すサインがある	チェックリスト② 建物アプローチ参照(p14)
情報拠点 (受付・各階ホール等)	<input type="checkbox"/> 建物利用者が建物概要を把握できるサインがある <input type="checkbox"/> 受付まで建物利用者を誘導するサインがある	チェックリスト② 情報拠点参照(p14)
移動空間 (廊下、階段、エレベーター等)	<input type="checkbox"/> 目的地まで建物利用者を誘導するサインがある <input type="checkbox"/> 建物利用者の安全な移動に必要な規制・説明サインがある <input type="checkbox"/> 非日常時における建物利用者の安全な避難誘導に必要なサインがある	チェックリスト② 移動空間参照(p15)
目的空間 (窓口、諸室等)	<input type="checkbox"/> 建物利用者に目的地へ到着したことを示すサインがある <input type="checkbox"/> 諸室における建物利用者の適切な利用に必要な規制・説明サインがある	チェックリスト② 目的空間参照(p15)

●サインシステムとは

○例えば、会議があるため、初めて建物を訪れる人の行動は以下のように想定されます。

- ①建物名を示すサインを見つけて、目的の建物に到着したことを確認し、
- ②玄関に入り、受付や建物案内図で会議室が何階のどの位置にあるかを確認し、
- ③矢印等の誘導サインを頼りに階段や廊下を移動し、
- ④扉の「会議室」と表示されたサインを確認して中に入る

○このように、会議室に行くためには、①～④の一連の行動ができるように、建物サインを連続的に配置することが必要です。つまり、建物サインが、建物利用者の一連の行動を導くサインシステムとして機能していることが大変重要となります。

○サインシステムを考えずに、個別の建物サインだけの設置・改善に力を入れると、結果的に、重要性や緊急性が低い建物サインが多く整備される事態を招く恐れもあります。

○そこで、サインシステムを検討するにあたり、建物内を4つの空間に分けると、「どこで」「どのような」建物サインが必要となるのかについて考えやすくなります。(次頁参照)

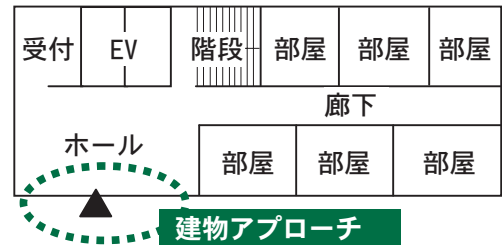
●建物内の4つの空間と主な留意点

- 「どこで」「どのような」建物サインが必要かという視点で建物内の各空間を捉えなおすと、「建物アプローチ」「情報拠点」「移動空間」「目的空間」の4つの空間に分けることができます。
- 各空間に必要な具体的な建物サインについては「チェックリスト②」を参照してください。

(1) 建物アプローチ (玄関・出入口周辺部等)

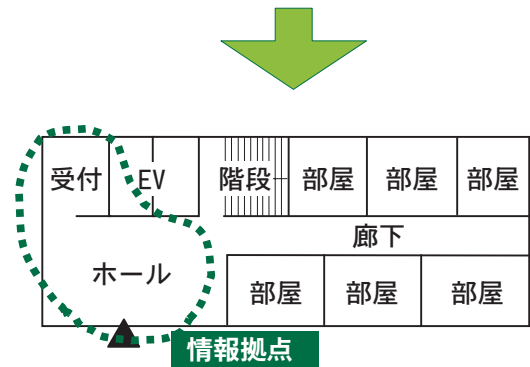
- 目的の建物への誘導と到着に係る情報を伝える空間です。
- 駅や歩道からの誘導との連続性や車両動線、駐車・駐輪場等との位置関係に配慮し、円滑で安全に移動できる経路を誘導します。また、移動経路からわかりやすい位置に到着を示す記名サインや音声・音響案内を設置します。
- 営業時間や出入口の方位等を考慮し、建物サインが機能する明るさの確保も必要です。

■4つの空間のイメージ図



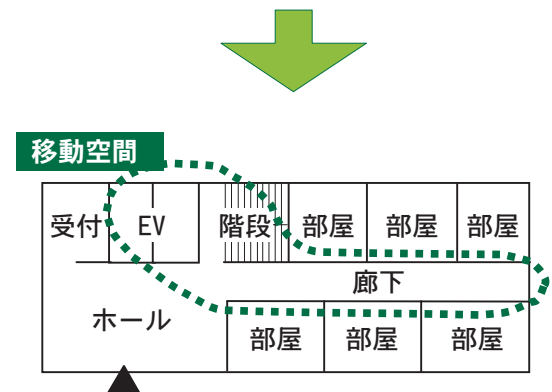
(2) 情報拠点 (受付・各階ホール等)

- 建物概要に係る情報を伝える空間です。
- 建物案内図を設置し、現在地と目的地の位置関係のほか、建物の利用特性に応じて、必要となる情報を提供します。また、音声・音響案内や触知案内図等複数の情報伝達方法での案内が必要です。
- 受付がある場合は、受付までスムーズに誘導します。
- 建物に係る各種情報を知る拠点として、建物サインに限らず、多言語表記や触知図パンフレットの用意、係員による案内など、ソフトの充実も必要です。



(3) 移動空間 (廊下、階段、エレベーター等)

- 目的空間までの移動経路に係る情報を伝える空間です。
- 円滑で安全な移動を誘導するため、移動経路の要所 (廊下交差部、曲がり角等) に誘導サインを設置するほか、立入禁止区域等も明示します。また誘導ブロック、手すり、点字等複数の情報伝達方法での案内が必要です。
- 目的地が複数ある場合は、各階ホール等に各階案内図を設置することも必要です。



(4) 目的空間 (窓口、諸室等)

- 目的空間への到着や諸室等の利用方法に係る情報を伝える空間です。
- 移動経路からわかりやすい位置に到着を示す建物サインを設置します。特に、トイレなどの公共性の高い施設については、さまざまな建物利用者が利用しやすいように必要な情報内容の提供や複数の情報伝達方法による案内が求められます。

